

10 月 15 日 (日) に行われた平成 29 年春期の情報処理技術者試験について、今回 4 回目の実施となった情報セキュリティマネジメント試験 (以下 SG 試験) の合格発表がありました。試験に関する統計データをもとに、全体の得点分布と合格率関連の情報をお知らせします。

## ■情報セキュリティマネジメント試験(SG)

### [平成 29 年秋期の情報セキュリティマネジメント試験 統計情報]

応募者	20,907 人
受験者	17,039 人
合格者	8,590 人
合格率	50.4%

試験結果は合格率が 50.4% で、初回からの 88.0%→70.3%→66.4% と下降傾向が続いています。当初の受験者が IT 関連業務に従事している人が多い状況から、本来の一般企業の受験者が増えてきた結果と考えられます。

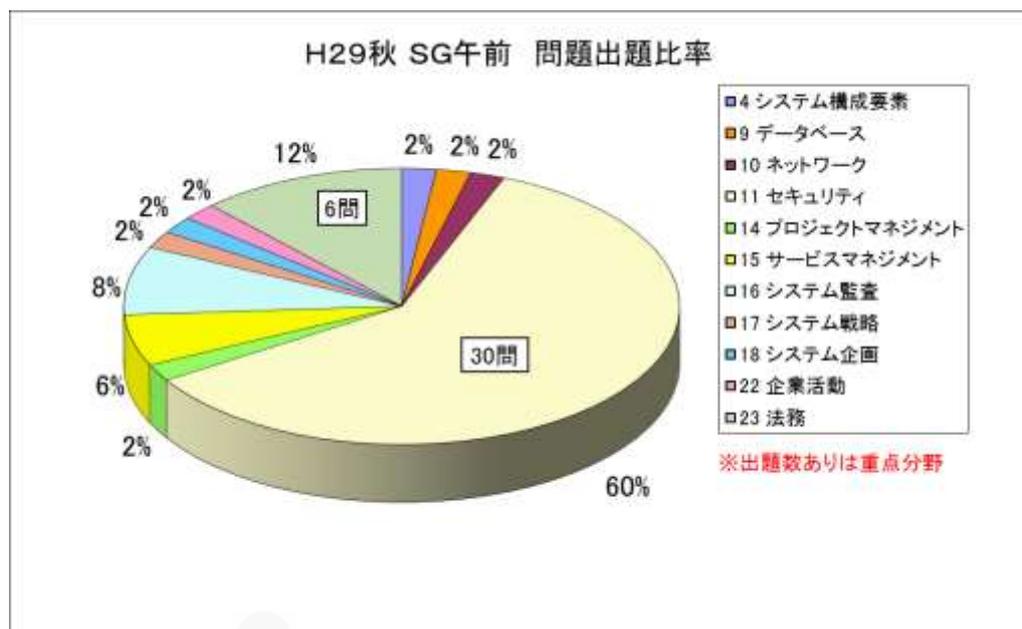
問題の難易度について、統計データから計算した午前試験の平均点の推測値は 61.9 点 (初回 81.1 点→70.4 点→70.6 点) で今回かなり下降しました。午後試験の平均点の推測値は 66.1 点 (初回 81.7 点→72.8 点→68.2 点) でこちらも下がっていますが、収束傾向にあるといえます。

今回の試験の傾向や特徴を少し細かい内容でまとめると、次のようになります。

### [午前問題]

- ・今回の出題数としては、SG 試験の重点分野のテクノロジー (セキュリティ) が 30 問、ストラテジ (法務) が 6 問の計 36 問 (約 7 割) あり、前回とくらべ法務が 1 問増えました。その他の出題分野としてはマネジメントが 8 問 (前回 8 問)、テクノロジーが 3 問 (前回 3 問、システム構成要素、データベース、ネットワーク)、ストラテジ 3 問 (前回 4 問) でした。
- ・新試験 4 回目の実施ですが、過去問題は前回とほぼ同じで全体の 5 割ありました。出題された過去問題としては基本情報技術者試験が 10 問 (前回 7 問)、応用情報技術者試験の過去問が 9 問 (前回 10 問) あり、応用情報からの過去問が多いことが特徴的でした。
- ・他の試験でこれまでに出题されていない新傾向といえる問題は 10 問ありました。
  - 問 1 サイバーセキュリティ経営ガイドラインに従った経営者の対応
  - 問 2 要求事項及び管理策の適用要否の考え方
  - 問 7 リスクの受容可否決定でリスク分析結果と比較するもの
  - 問 8 リスクの運用管理についてアカウントビリティ及び権限をもつ主体
  - 問 12 サポートユーティリティと判断されるもの
  - 問 13 秘密情報の漏えいにつながる操作への警告・自動無効化をするもの
  - 問 15 ID カードで入退室認証のコントロールを行う仕組み
  - 問 19 参加者の端末以外からのアクセスポイントへの接続を防止する対策
  - 問 30 ファジングの説明
  - 問 46 ビッグデータによって生じたデータ処理の変化

## 平成 29 年秋期の情報セキュリティマネジメント試験



今回出題されたセキュリティ分野の問題は、前回と比べて技術寄りの問題が増えていますが（2問→3問）、初回の6問から見ると減っています。また、今回暗号化と認証の問題が多くなっているのが特徴といえます（6問→8問）。

今回のほかの特徴として、文章や用語問題でJISの規格番号を明記して出題されている問題が多くなっています。問題内容は基礎知識があれば絞り込めるものもありますが、全体として難しい問題に感じられました。

### 〔午後問題〕

今回の午後問題の出題テーマは次のとおりでした。

問	テーマ	内容	難易度
1	情報セキュリティリスクアセスメント	機密性・完全性・可用性の評価、脅威・脆弱性の評価、在宅勤務の試行導入、実現案、リスク再評価	普通
2	Web アプリケーションソフトウェア開発委託	セキュリティ管理規程、Web サービスの仕様、委託仕様書の検討、脆弱性診断結果、サービス開始後	普通
3	スマートデバイスの業務利用における情報セキュリティ対策	モバイルワーク利用規程、使用可ソフトウェア、セキュリティリスクと対策、課題と解決案	やや難

全体に問題のボリュームが増える傾向にありますが、今回さらに増え、問1が15ページ、問2と問3が12ページもありました。すべて解答する必要があるため、問題文を根気よく丁寧に読んでいく読解力を付ける問題演習が重要です。問題ごとに解答するマーク数が異なりますが、10～11個の解答マーク数でした。選択肢は記号の組合せなど紛らわしいものが多く、選択する際には十分注意が必要です。

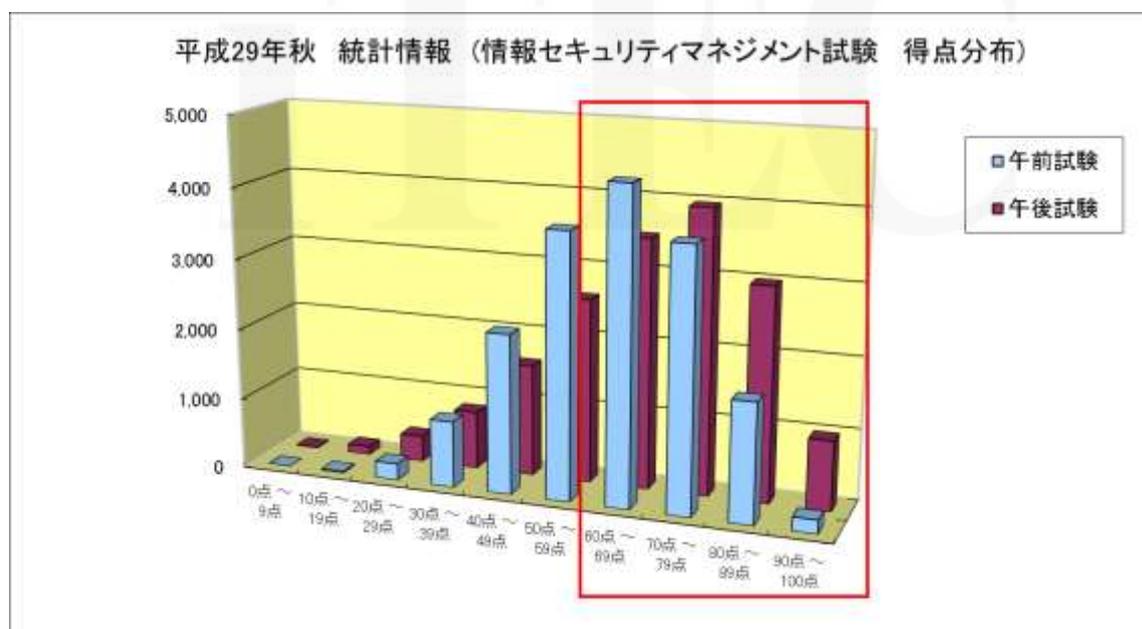
次回以降も同じ程度の問題ボリュームと思われるかもしれませんが、1問に30分かかれることを意識して、長い説明文をあせらずに読み、内容をしっかり理解するようにしてください。問題集などで演習を解答時間30分と決めて行うことを解答の途中でやめることなく、最後の時間まで解ききるよう

にして、実践力を付ける必要があります。

試験センターから発表された SG 試験の得点分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。

〔平成 29 年秋期 統計情報(情報セキュリティマネジメント 得点分布)〕

得点	午前試験	午後試験
0 点 ～ 9 点	0	10
10 点 ～ 19 点	21	117
20 点 ～ 29 点	235	369
30 点 ～ 39 点	936	815
40 点 ～ 49 点	2,244	1,577
50 点 ～ 59 点	3,703	2,589
60 点 ～ 69 点	4,378	3,496
70 点 ～ 79 点	3,657	3,962
80 点 ～ 89 点	1,673	2,990
90 点 ～ 100 点	192	982
計	17,039	16,907
午前と午後の差		(132)
<b>合格者数</b>	<b>8,590</b>	合格者数との差
午前 60 点以上合計	9,900	1,310
午後 60 点以上合計	11,430	2,840



今回の結果を少し詳しく分析すると、午前試験で合格基準点の 60 点以上の方は 9,900 人で、受験者の 58.1% になります。前回は 80.2% でしたので、今回の問題をかなり難しいと感じた人が多かったと思われます。また、午後試験が基準の 60 点以上だった人は 11,430 人で受験者の 67.6% (前回 73.4%) いて、こちらも少しですが前回より少なくなっています。

#### 〔次回試験に向けて〕

今回の SG 試験の合格率は 50.4%（前回は 66.4%）で、他の試験と比べれば高いですが、問題が毎回少しずつ難しくなっていますので、業務で日常行われているセキュリティ対策関連の基礎知識をしっかりと理解しておく必要があることが分かります。

SG 試験は IT を利活用する立場で業務に従事する人のための試験ということを考えると、出題内容と試験レベルは合っています。このため、今後は問題の難易度について大きな変化はなくなると考えられますが、次回の試験対策として過去の試験の出題内容を理解し、IPA で公表されているセキュリティ関連のガイドラインや事例を理解しておきましょう。また、JIS 規格については、下記のサイトで画面上だけですが読むことができますので、JIS Q 27000, JIS Q 27001, JIS Q 27002 の用語の定義部分だけでも読んでおくことをお勧めします。

<http://www.jisc.go.jp/app/jis/general/GnrJISSearch.html>

知識がついて来たら、事例への適用力を高めて、午後試験の対策を行ってください。アイテックの参考書、問題集の活用をお勧めします。長文問題への対応力をしっかり身につけて受験してください。

